

背景

さくら市では高齢化が進んでおり、災害時の避難や救助のためにも自主防災組織が必要と考えられている。しかし、現在の時点で、さくら市内の75か所の行政区のうち、約半数に当たる37地区でしか自主防災組織が設立されていない。また、地区によって自主防災組織の設立数に大きな差がある。河川や急な斜面の多い旧喜連川地区は設立が進んでいるものの、平地である旧氏家地区では設立率が低い状況である。大きな河川である鬼怒川に近いところでも未設立の地区がある。さくら市において地域防災力を高めるためにも、自主防災組織が未設立の地区においても設立を目指す取り組みが必要である。

目的

さくら市において地域防災力を高めるために、自主防災組織が未設立の地区で説明会を開催し、住民の防災意識を向上させ、最終的には自主防災組織の新規設立を促進することを目的とする。

実施内容・方法

1stCycle

区長さん宅を訪問し、チラシを配布すると同時にアンケートを配布
 ・ 設立が遅れている地域の課題の把握
 ・ 自主防災組織についての認知度・防災意識の調査



2ndCycle

・ 自主防災組織が未設立の地区での説明会の実施
 ・ プロジェクト演習での取り組みを発表するため、さくら市長との意見交換会に参加
 ・ 防災に対する知識を深めるため、防災キャンプに参加



3rdCycle

自主防災組織設立後に、スムーズに継続的に活動ができるよう、自主防災組織ロードマップの作成・配布。



図1 配布したアンケート

図2 配布したチラシ

図3 意見交換会の様子

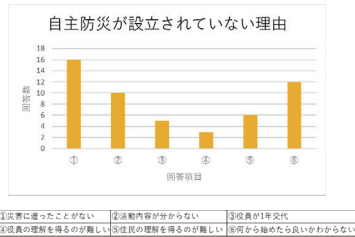
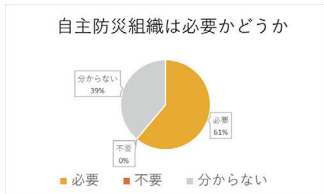
図4 防災キャンプの様子

図5 ロードマップ配布の様子

結果と考察

1stCycleアンケートより

・ 自主防災組織を必要と回答した人が過半数を占めた。
 ・ 自主防災組織が設立されない理由として何から始めたら良いのかわからない。災害に遭ったことがないという回答が多かった。



課題

→ 自主防災組織について詳しい説明をすることが重要。
 → 地域で起こり得る災害、災害の恐怖、防災の重要性を伝えることが重要。

2ndCycle

説明会

設立後に関する意見が多く出た
 ・ 他の地域では補助金の使い道をどうしているのか
 ・ 設立をした後の活動が気になる
 → 設立後の活動計画を示すのが良いのでは？

防災キャンプ

・ 防災食(非常食)乾パンとカレーの試食
 ・ 防災用品の設置
 ・ 防災クイズ
 ・ 災害支援経験者の講話
 → 防災に対する知識を深めた。防災の重要性の再確認。

さくら市長との意見交換会

・ プロジェクト演習での取り組みを発表
 ・ 市長と学部長の意見交換会
 ・ さくら市の防災関係の取り組み状況、令和元年台風の経験について市長から説明を受けた
 → さくら市長の防災に対する高い関心を感じた。

提案 自主防災ロードマップ～共助の道も一歩から～

1年目



組織する

・ 資器材購入
備品リストを見ながら購入するものを決める
 ・ 地区防災計画の策定
栃木県の策定マニュアルを参考に

2年目



地域を知る

・ 防災講話
消防職員、消防団員、防災士、災害経験者による講話
 ・ まち歩き
地域の危険な場所を確認
わがまち防災マップの作成

3年目



理解を深める

・ 防災キャンプ
非常食の試食
パーティー設置体験
防災クイズ
災害支援経験者の講話

4年目



逃げ遅れゼロ

・ 避難行動要支援者への取り組み
避難行動要支援者名簿を地図上に落とし込む
簡易ストレッチャー体験
車いすでの避難体験

5年目



実践する

・ 避難訓練
黄色いハンカチ作戦を実施
 ・ 炊き出し訓練
カレーや豚汁など